

としまち研会報 第35号

おいらのまち

2008.9

発行 NPO都市住宅とまちづくり研究会 理事会

福祉部会、デンマークに調査団派遣

福祉部会は、数年前に介護保険事業としての高齢者デイサービス『下町げんき会処』に取り組もうと準備しましたが、力不足で実現することができませんでした。その後、「懐かしい映画を観る会」を2年余行なってきましたが、これも現在休止中です。

そんな福祉部会の活動を再度活性化させようと、昨年来、デンマークに福祉事情調査団を送ることを企画し、福祉部会でデンマークに関する勉強会を行ってきました。7月16日(水)には六本木にある日本で唯一の本格的なデンマーク料理のお店であるCafé Daisyで勉強会(?)を行なうなど、しっかりと準備をして、9月14日(日)から9月19日(金)まで4名で調査・研修に行ってきました。

高齢者のコ・ハウジング訪問、国民の10分の1が加入している高齢者組織の活動見学と支部幹部のヒアリング、施設から在宅へという政策が実施されているなかで高齢者統合ケアセンターとアクティビティセンターの視察・ヒアリングなど、短い期間でしたが大変有意義な調査・研修メニューでした。



高齢者統合ケアセンター視察

研修の企画・コーディネートをくださったユーロ・ジャパン・コミュニケーションの小島ブンゴード孝子氏のお宅に3日間宿泊し、夫君カースティン・ブンゴード氏にもいろいろお世話になり、デンマーク人の暮らしなどについても教えていただきました。

詳しい調査報告は別途、報告書を作成し、かつ、10月15日(水)19時から報告会を開催して会員の皆さんにご報告しますが、今回の調査団はデンマークの福祉事情の調査・研究そのものを目的とするものではなく、9年目を迎えたとしまち研の福祉部門の取り組みを活性化させるための方策を探し出すことを目的とするものでした。一部に「事業型NPO」と評価・分類されているとしまち研ならではの取り組みを検討していきたいと考えています。

デンマークの高齢者福祉の三原則は、自己決定権、生活の継続性、残存能力の活用ということだそうです。

自己決定権は、“老いては子に従え”ではなく、どう生きるかは高齢者本人が決めるということ。生活の継続性は、住み慣れた環境での生活をできるだけ継続することですが、どうしても住み替えが必要な場合も慣れ親しんだ家具などに囲まれて暮らすこと。残存能力の活用は、高齢者が自分で何かするという事は時間がかかるから何でもやってあげるのではなく、残されている能力を使って自立した生活をしてもらうこと。などです。

日本の女性は、昔は、“幼くしては親に従え、嫁しては夫に従え、老いては子に従え”というルールのもと、良妻賢母になるように育てられ、教育されてきました。今の高齢者の方々、あるいはその子ども世代である団塊の世代がすんなりとデンマークの三原則を受け入れないと思いますが、視察・ヒアリングを経て三原則が含蓄のあるものだということは理解できてきました。

一朝一夕に福祉部会の「事業」ができるわけではありませんが、重要なヒントを得たこと、そして貴重な体験をした人材ができたことが、デンマーク調査団派遣の成果であると確信しております。

(としまち研理事長 杉山昇)



オレコレ(高齢者コ・ハウジング)にて



ブンゴード家の前で記念撮影

一木会ご報告(原則、毎月第一木曜日に COMS HOUSE で行う勉強会・交流会です)

第156回一木会(2008.8.7)

株式会社クオリティ・エージェンツ代表取締役の石川和信氏に、「個人情報保護の過剰反応と勘違いについて」というテーマで個人情報保護法のそもそも論からお話をいただきました。



同窓会名簿やPTAの連絡網、マンション居住者の連絡網、町会の活動などのさまざまな社会活動における個人情報に関する過剰反応については、名簿の作成というところに焦点をあてて、具体的な対策を教えてください、すぐに役立てたいという感想がありました。

第157回一木会(2008.9.4)

司法書士法人大城節子事務所の赤羽司法書士に、「暮らしのなかの法律家：司法書士業務の拡大～成年後見制度など～」をテーマとして、成年後見制度を中心に業務分野の拡大した司法書士の業務のお話をいただきました。



法定の成年後見ばかりではなく、高齢者が自分で意思決定をしていくための任意後見制度も今後の活用が注目されます。超高齢社会での身近な問題でもあり、お話のあとの交流会での1分間スピーチも盛り上がりました。

今後の一木会予定

10月(10月2日)【第158回一木会】

建築写真家の吉田誠さん

「建築写真の現場から」

11月(11月6日)【第159回一木会】

奈良県立大学地域創造学部地域総合学科講師の古山周太郎さん

「(仮題)旧山古志村の震災復興支援」

おいらのひとりごと

『おいらのひとりごと』はとしまち研会員による、リレー形式のエッセイです。

『ぼくのミッション』 としまち研理事 市野恵司

10年ほど前、以前の会社で一泊二日のある研修を受けたことを思い出しました。

それまでの研修は、営業技術や会社の数値目標等、うんざりするものばかりでしたが、その研修だけは、めずらしく「生き方」についてのものでした。

その研修名は「7つの習慣」。少し大きい本屋へ行けば、その分厚い本を今でも目にすることができます。

何故、会社がこのような研修を行ったのか、その意図は今になってみると少しわかる気がしますが、その時は、新鮮味もあって結構まじめに取り組んでいました。

内容は省略しますが、研修の最後に自分へのミッションを書く時間があります。

このミッションは誰かに評価してもらうのではなく、人生の中で自分はどうありたいのか、何をしたいのかを考え、それを自分宛のミッションという形にまとめるものです。

ミッションは6つ書きましたが、その一つに、

自分に関わる全てのことを、まず受け入れよう。それから原則に従い、やるべきことをやろう。

というものを書きました。

短いミッションですが、当時、不平不満だらけで鬱屈していた自分の気持ちを見直したときに、ごく自然にこのミッションが浮かんできました。

その後、何度か感情的になりそうなことが起きたときに、このミッションを思い出し、なんとか踏みとどまったことがありました。

しかし、最近、としまち研への密着度が深まるにつれ、このミッションを思い出すこともなくなりました。これはボケが進んだのでしょうか。それとも……。

次号の『ひとりごと』は田村実さんです。お楽しみに。

(仮称)九段南コーポラティブハウス地鎮祭

建設組合設立から約9か月、8月のお盆休みの最終日である8月17日(日)に(仮称)九段南コーポラティブハウス新築工事の地鎮祭が執り行われました。

8月のお盆の時期ということで猛暑を心配しましたが、当日は前日までの暑さはどこへやら。お日さまが隠れ、雨がいつ降ってもおかしくないお天気でしたが、涼しい中での地鎮祭となりました。

神事の前に近くの区民館に集合し、近隣へのあいさつ回りや直会(な おらい)会場の設営を組合員の皆さんで手分けをして行いました。神事は九段二丁目の氏神様である築土神社の宮司さんをお願いし、九段二丁目町会長や地権者である宝来屋の従業員の皆さんなどたくさんの方にご参加いただき、これから始まる工事の安全を祈念しました。



地鎮祭終了後の記念撮影



直会 乾杯の様子

神事終了後は、イベント委員長で司会進行の本田夫妻手配の食事といつもよりちょっと多めのアルコール、施工者である(株)丸二さんからの差し入れのシャンパン・ワインで直会を行いました。全員参加の1分間スピーチでは、組合員の皆さんはこの事業に対する想いを、町会役員の皆さんからは町会行事等の紹介をしてもらいました。直会に参加して下さった町会役員さんは組合員の和気あいあいにびっくりされていたようです。

建物竣工までは約14ヶ月。今後は工事の進行を注視しながら入居後の管理の話を中心に竣工を待ちます。(としまち研事務局 飛澤玲奈)

大規模修繕コンサルタント業務の受託

文京区根津のマンション(74戸)の第1次大規模修繕コンサルタント業務をとしまち研で受託することになりました。昨年に相談をいただいて以来、としまち研では団地・マンション再生部会を中心に、管理組合への提案を行ってきました。

8月23日の管理組合臨時総会の場で、2社によるプレゼンテーションを行い、そのうち決選投票があり、としまち研に決定しました。としまち研の取り組み姿勢や経験を評価して下さった住民の皆さんの期待にこたえられるよう、身を引き締めて取り組んでまいりたいと思います。

(としまち研事務局 五十嵐敦子)



コンサルタント業務を受託するマンション

『二百年住宅・・・持続可能な住まい』連続勉強会を開催しました

「200年住まい・まちづくり担い手事業」による調査活動(前号に掲載)を開始する前に、以前、公開勉強会(平成13年11月)でコーポラティブハウスの歴史のお話をしてくださった神谷宏治先生(建築家・日本大学名誉教授)に講師をお願いして、9月11日(木)・25日(木)に連続勉強会を開催しました。

第1回は、「持続可能性」をテーマに、まず江戸時代に遡って1600年-1800年-2000年と200年ごとの江戸・東京下町の変遷や、現在われわれが直面しているエネルギー問題、“intensional community”(=有志のコミュニティ/神谷先生・訳)などをご紹介いただきました。第2回は、神谷先生の建築家としてのご経験や研究活動をもとに、「建築や集住のあり方」における提案や課題をお話いただきました。(詳細は報告書を作成中です。)

2回にわたり、幅広い視点から「200年住宅」の本質にかかわる貴重なお話を聞くことができました。調査では、全国およびとしまち研で携わったコーポラティブハウスへのヒアリング・視察を通じて、持続可能なコーポラティブハウスのつくり方や管理方法、としまち研のかかわり方を探っていきたいと思っています。

(としまち研事務局 関真弓)

としまち研掲示板

共同建替え部会・コーポラティブ住宅部会

9/18(木)に合同部会を行いました。
次回は10/22(水)に開催予定です。

・九段南コーポラティブハウス

工事は順調に進んでいます。
11月に第6回総会・共用部検討委員会を開催する予定です。

総務部会・広報部会

8/5(火)に合同部会を行いました。
次回は10/7(火)を予定しています。
10/4(土)に第8回赤沢ツアーを開催します。今回は日帰り企画になっています。ツアー開催報告は次号にて。
11月に『神田の暮らしを楽しむ会』を開催予定です。
詳細が決まり次第、ご案内します。

福祉部会

8/29(金)に第4回福祉部会勉強会を開催しました。
デンマーク研修の報告会を10/15(水)に予定しています。多くの皆さんの参加をお待ちしております。



デンマークの風景



団地・マンション再生部会

8/27(水)、9/24(水)に部会を開催しました。
次回の部会は10/23(木)を予定しています。

ラグーン千歳烏山 2住戸を販売中

としまち研でコーディネート及び工事監理をしているラグーン千歳烏山(耐震偽装マンションの建替え)も12月下旬に竣工・引渡しですが、保留床2住戸を販売しています。千歳烏山駅徒歩20分と若干遠いのですが、約98㎡と約103㎡の広い住戸で、家族の多い方に最適です。ご関心のある方は事務局までご連絡ください。

としまち研からのお知らせ

としまち研では、活動に参加して下さる方(正会員)や活動を応援して下さる方(賛助会員)を募集しています。

詳しくはとしまち研のホームページをご覧ください。

まちづくりのご相談は事務局へ

借入金があるが何か建替えの方法はあるか。
お隣りも建替えを考えているようだが共同建替えは自分たちでは調整できない。
というような難しいご相談も検討します。
お気軽にご相談ください。

編集後記

冒頭にもありましたが、デンマークへ福祉部会の研修として行ってきました。実は私は飛行機も海外も初めての経験。成田に行くのに、飛行機に乗るのに、外国人ばかりのところに行くのにワクワクドキドキでしたが、なんとか無事にすべてのスケジュールをこなして帰ってくる事ができました。としまち研に来て?年、とても貴重な体験をさせていただきました。報告書をお楽しみに。(事務局 飛澤)

〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町33 COMS HOUSE 2階
tel 03-5207-6277 fax 03-5294-7326
E-mail info@tmk-web.com ホームページ http://www.tmk-web.com/
皆さまのご意見、ご感想をお待ちしております。

としまち研現在の会員数
正会員50人 賛助会員32人
編集発行人 比護彰彦
事務局担当 飛澤玲奈

